日本放射線技師会（島根県民会館）　小樽掖済会病院 CTC ライブ中継　＠島根

東芝メディカルシステムズ（株）　天野　清香

2013 年 9 月 20 日、島根県松江市で開催されている日本放射線技師会でランチョンセミナーを開催しました。
今回のランチョンセミナーは、大腸 CT 検査風景をライブ中継する、初の試み。
大腸バリウムには馴染みがあるけれど大腸 CT には未だトライできていない、という放射線技師の方々へ、施設見学だからこそ分かる CT コロノグラフィのノウハウ・コツをお伝えするべく、ライブ中継の実施となりました。
当初は小さめの会場でしたが、学会の計らいで、第 2 会場である中ホールでの開催に変更。
約 300 名の方々が聴講にいらっしゃいました。
島根県民会館の学会会場では、座長の山下病院（愛知県一宮市）山崎先生が進行をご担当。一方、北海道小樽市の小樽掖済会病院では、平野先生と鳥本先生がスタンバイ。
座長席には、①学会会場のスクリーンを映すモニタ、②ビデオ通話 FaceTime を使用して小樽掖済会病院の様子をリアルタイムに確認するためのノート PC、③座長が使用されるノート PC、3 台の画面がズラッと並びました。当日朝の接続テストでは、鮮明な画像が映し出され、音声ディレー1 秒も大きな問題なし。
接続テストに飛び入り参加された、藤田保健衛生大学 井田先生も「イイね～」と仰って、ご満足される臨場感でした。
ランチョンセミナーは 12:10 開始予定。接続テストに安心し、各自が自由に時間を過ごし、会場でランチョンセミナー準備を初めたのは、11 時ころのお弁当搬入からでした。
このお弁当、今回の学会では、気合が入ったものでした。会期中に 10 コあるランチョンセミナー、すべてが異なる種類とのこと。
そして、本ランチョンセミナーに割り振られたお弁当が珍品…。お弁当が運ばれると、業者の方が「ごはん盛りますので、机を３コお借りします」とのこと。「盛る」？意味を瞬時に理解できなかった東芝社員の前を、大きな発泡スチロールが運ばれていきました。フタを開けて出てきたのは、ホカホカ湯気の立った炊き込みご飯。冷たいお弁当ではなく、あたたかいごはんを提供するべく、その場でご飯を盛ってお弁当にセットしていくのでした。数々のランチョンセミナーを担当してきた東芝社員も、このお弁当には驚きました。会場でご飯を盛るとは初。ステキな配慮。斬新。
とはいえ、その場でごはんを盛るので、やはり準備時間は費やしてしまいます。あたたかいご飯に対し、「お弁当の完成が間に合わないんじゃないか！？」と、東芝社員はヒヤヒヤ。幸いにも前のセッションは 5 分遅れ。なんとかお弁当は開場直前の完成となったのです。
ひと安心と思いきや、今度は小樽側から電話連絡が入りました。直前まで救急検査が入ってしまいライブ中継準備が遅れた、とのこと。小樽の準備が整わないと、ランチョンセミナーそのものもスタートできません。ライブならではのアクシデントが発生する中でのランチョンセミナースタートとなりました。
ランチョンセミナーが始まってしまうと、すべては座長の進行次第となります。
山崎先生が冒頭に約 10 分ほど、大腸 CT 検査の概要をご紹介。自らお話しされつつ、手元の FaceTime 画像を見て小樽の様子を確認。準備ができたところで小樽のライブ映像を会場内へ映し出すという、すば

らしい進行となりました。
そうして始まったライブ中継。会場スクリーンに、小樽の平野先生・鳥本先生が鮮明に映し出されました。小樽から手を振るお二人の笑顔。鳥本先生の機器紹介に平野先生がフリップを使って分かりやすく解説する場面では会場から笑い声が発せられるなど、島根の学会会場は和やかな雰囲気に包まれました。
また、ポイントとなる場面では座長の山崎先生から小樽の平野先生へご質問されるなど、大腸 CT の最前線を走り続けてきた山崎先生と平野先生の掛け合いで、臨場感と人間味あるランチョンセミナーとなりました。
セミナー終了後は、壇上の山崎先生の元へ大阪医大・吉川先生が「良かったよ」とお声掛けにいらしたり、セミナー会場前で東芝社員へ CTC についてお問い合わせくださった来場者もいらっしゃるなど、来場された方々の感心と大腸 CT への関心を高める機会となったようです。
始まるまでが大変な、初の大腸 CT 検査ライブ中継でしたが、結果的に大成功。
平野先生・鳥本先生、小樽掖済会病院のみなさま、座長の山崎先生、お疲れさまでした。

会場内の様子

座長の山崎先生

会場から見た小樽掖済会病院 平野先生・鳥本先生。鮮明に映っていました。